

絵画を読む



展示期間 令和 5 年 7 月 20 日～8 月 20 日

絵画の楽しみ方はいろいろあります。自分で描く。描かれた絵を美術館などで見る。あるいは部屋に飾る。さまざまな楽しみ方の中から、今回は絵画を読んで楽しむ本を紹介します。



〇〇に注目

- ・『ルノワールの犬と猫—印象派の動物たち』 ルノワール／[画]
安井裕雄／著 講談社 2016
- ・『名画のドレス—拡大でみる 60 の服飾小事典』 内村理奈／著
平凡社 2021
- ・『名画の中のネコ—ネコ好きに贈るファンタジー』
スーザン・ハーバート／著 河出書房新社 2018
- ・『名画の中の植物—〈美術の植物学〉への招待』 大場秀章／著
八坂書房 2017
- ・『浮世絵に見る江戸の食卓』 林綾野／著 美術出版社 2014

浮世絵には庶民の生活を描いたものもたくさんある。その中で食べ物に注目したのがこの本。絵に描かれたものを実際に料理した写真も掲載されていて、江戸時代の食生活が垣間見える。

- ・『アイテムで読み解く西洋名画』 佐藤晃子／著 山川出版社 2013
- ・『かわいい印象派』 高橋明也／監修・著 杉山菜穂子／監修
東京美術 2016

印象派画家たちの絵をかわいいという視点で紹介している本。子どもや動物などのモチーフのかわいさ、構図や色彩など表現のかわいさに注目して絵画を楽しむことができる。

画家を読む

- ・『ピカソの私生活—創作の秘密』 オリヴィエ・W.ピカソ／著
岡村多佳夫／訳 西村書店 2019
- ・『ゴッホ名画巡礼』 世界文化ブックス 2021
- ・『「農民画家」ミレーの真実』 井出洋一郎／著 NHK 出版 2014
- ・『モネのあしあと—私の印象派鑑賞術』 原田マハ／著 幻冬舎 2016
- ・『バンクシー—アート・テロリスト』 毛利嘉孝／著 光文社 2019
- ・『フェルメール—作品と画家のとおき知識』 千足伸行／監修
河出書房新社 2018
- ・『贋作王ダリーシュールでスキャンダラスな天才画家の真実』
スタン・ラウリセンス／著 楡井浩一／訳 アスペクト 2008
- ・『愛のぬけがら』 エドヴァルド・ムンク／著
ムンク美術館／原案・テキスト 原田マハ／訳 幻冬舎 2022
- ・『バルテュス 猫とアトリエード・ローラ節子が語る』
ド・ローラ節子／[述] 夏目典子／編 NHK 出版 2014
- ・『西洋美術巨匠たちの履歴書』 木村泰司／監修 宝島社 2013

絵画を鑑賞するとき、ただ実物を見るだけではもったいない。画家のひととなり、時代背景を少し知るだけでも、より深く楽しく絵画を鑑賞できる。著名な画家の一生を一枚の履歴書にまとめて紹介した本。

- ・『クリムトへの招待』 朝日新聞出版／著 朝日新聞出版 2019
- ・『藤田嗣治—腕一本で世界に挑む』 佐藤幸宏／監修 平凡社 2019



絵画を題材にした小説

- ・『名画小説』 深水黎一郎／著 河出書房新社 2021
- ・『ゴッホの犬と耳とひまわり』 長野まゆみ／著 講談社 2022
- ・『カンヴァスの恋人たち』 一色さゆり／著 小学館 2023
- ・『ピカソ青の時代の殺人』 佐伯泰英／著 角川春樹事務所 1999
- ・『殺されたゴッホ』 マリアンヌ・ジェグレ／著
橋明美／訳 臼井美子／訳 小学館 2017
- ・『レンブラントをとり返せ—ロンドン警視庁美術骨董捜査班』
ジェフリー・アーチャー／[著] 戸田裕之／訳 新潮社 2020
- ・『〈あの絵〉のまえて—A Piece of Your Life』 原田マハ／著
幻冬舎 2020

隣に越してきた老婦人は、なぜか私のことを気にかけてくれて、私の日常は少しずつ変化していく。「絶対、あきらめないで。待ってるからね。」そうって背中を押してくれた祖母と、今、一枚の絵の前で約束の再会を果たす。

- ・『こちら警視庁美術犯罪捜査班』 門井慶喜／著 光文社 2013
- ・『湘南幻想美術館—湘南の名画から紡ぐストーリー』 太田治子／著
かまくら春秋社 2019
- ・『真珠の耳飾りの少女』 トレイシー・シュヴァリエ／著 木下哲夫／訳
白水社 2000
- ・『写楽閉じた国の幻』 島田荘司／著 新潮社 2010
- ・『異人館画廊—盗まれた絵と謎を読む少女』 谷瑞恵／著 集英社
2014
- ・『カンヴァスの向こう側』 フィン・セッテホルム／著 枇谷玲子／訳
評論社 2013



名画の謎を追え



- ・『怖い絵の謎を解く—名画の読み方』 平松洋／著

新人物往来社 2011

- ・『ムンクを追え！

—『叫び』奪還に賭けたロンドン警視庁美術特捜班の 100 日』

エドワード・ドルニック／著 河野純治／訳 光文社 2006

ムンクの「叫び」が盗まれた！ロンドン警視庁特捜班がおとり捜査で盗難
絵画ネットワークの実像に迫る。事件発生から犯人逮捕まで、実在した事
件を追ったノンフィクション。

- ・『はじめてのルーヴル』 中野京子／著 集英社 2016

- ・『名画の暗号』 西岡文彦／著 KADOKAWA 2015

- ・『美女の骨格—名画に隠された秘密』 宮永美知代／著

青春出版社 2009

- ・『ベラスケス—ラス・メニーナス(女官たち)』 マルコ・カルミナーティ／著

佐藤幸宏／訳 西村書店 2016

- ・『名画に隠された「二重の謎」—印象派が「事件」だった時代』

三浦篤／著 小学館 2012

* この資料リストは、令和 5 年 7 月に美園図書館の展示コーナーで紹介した
図書の一部です。リストに載せていないものも多数展示しています。

* 貸出中のものは予約ができます。

編集・発行 さいたま市立東浦和図書館

さいたま市緑区中尾 1440-8

TEL 048-875-9977 FAX 048-875-9687

<https://www.lib.city.saitama.jp/>